

1 実践 「人権意識の育成を図るための実践」

(1) ねらい

- 人権だよりを発行し、人権教育への理解と関心を高めながら、学校での多種多様な活動の中で、人との関わりを通して互いの人権を尊重し合う意識の高揚を図る。

(2) 人権意識の高揚のための3視点

- ア 人の長所や頑張り、親切などに気付き、その人を尊重し、人を大切にする態度を育てる場面を多く設定する。
- イ 弱い立場の人の存在を意識し、その人の不安感や、苦しみを理解しようとする姿勢や、できるだけ不安感や苦しみを緩和させるための配慮をする経験を多くする。
- ウ 一人一人の考えや行動の違いを個性として認め合い、自分と違うことを責めたり、非難したりしない寛容さや優しさを育てる機会を多くする。

(3) 具体的な実践

- ア ピュアサポーター委員会による「元気・笑顔ハッピーツリー」で、校内に勇気と元気の波動をメッセージとして札に書き発信する取り組みをした。下の写真がその様子である。



- イ 人権メッセージを募集し、人権意識の育成を推進した。そして、寄せられたメッセージを「人権だより」で紹介した。その人権メッセージの一部を下記に紹介する。

人を差別する人がいます。私は、差別されるのは、好きじゃありません。だから、人を差別したりするのは、やめてほしいと思いました。私が辛いときに勇気づけられることは、友達が、私に話しかけてくれることです。だから、これからは、差別を無くし、勇気づけてくれるような友達をもっとつくりたいと思いました。

勇気を出せば、何にだって取り組める。助け合えば、何でも乗り越えられる。差別や暴力では、何も解決できない。一つの言葉で、人の気持ちが変わってくる。だから、みんなを、一つの言葉で勇気を付けたり、助けになりたい。いつも、ぼくがこころがけている言葉は、「がんばろう！」

困ったときや、苦しんでいる時、その人に、一番最初にかける言葉、「大丈夫？」「どうしたの？」この言葉が全ての始まり。人に相談し、解決方法を考え、実行してみる。それで、気持ちが晴れる。すると、みんなが、笑顔になれる。

人は、簡単に、人の心を傷つけることができる。だけど、傷ついたところは、なかなか治らない。だから、人の心を傷つけるより、仲良くしていくような心にしていこう。そして、友達を大切にしよう。

「自分らしさって何だろう？」一人だけ意見が違ったら、絶対に恥ずかしい。みんな、自分を変に思うだろうし、仲間はずれにされたら、怖くなると思う。でも、自分は世界に一人しかいない。自分と全く性格が同じ人なんているだろうか。ありのままの自分でいれば、それが「自分らしさ」。

「ありがとう。」言われるだけで嬉しくなる。言われるだけで、心があたたかくなる。言われるだけで、楽しくなる。言われるだけで、ウキウキする。「ありがとう。」の言葉で、みんなが幸せになる。「ありがとう。」が昨日よりも増えるように頑張ろう。「ありがとう。」

「勇気」って、とても大切なこと。もしかしたら、今日の勇気が、明日につながるかもしれない。いろいろな不安の中で、生まれる勇気は、大きい力を持っている。人の心を動かしたり、人を助けたり。みんなも勇気を出してみよう。きっと、その先には、良い出来事が待っている。今日の勇気は、明日への希望！！

「もう絶対 許さない！」みなさんは、こんな言葉を口にしたことはありませんか。けんかをする、つい自分でも信じられないくらい思いやりのない悪い言葉を連呼してしまう。言われた相手は、どんなにか心が傷ついてしまうだろう。でも、知っていますか？ 一番傷ついているのは目に見えない自分の心。きっと、悲鳴を上げているよ。泣いているよ。苦しいよ。そして、何より悲しいよ。せつかく生まれてきたのだから、悲しみは吹っ飛ばし、楽しい、うれしい。明るい心。大きく、大きく育てよう。きっと笑顔になれるから。

2 成果

- (1) 3月の震災を機に、校内で、被災した人たちへ励ましの言葉を発信していこうという気運が高まり、旧校舎の昇降口に、模造紙で作った巨大な樹に全校生徒が応援メッセージを書いたカードが掲示された。新校舎が完成すると、クリスマス用の立体ツリーに代表生徒による応援メッセージが掲示された。これらは、人権意識を高めることができたと強く感じた取り組みであった。
- (2) 人権だよりで、人権メッセージを募集し、各クラスの担任教師の協力を得て、素晴らしい内容の人権メッセージを集めることができたことである。そして、その内容を、人権だよりで紹介し、みんなでそれを認め合うことで互いの人権を尊重し合おうという意識を高めることになった。
- (3) 人権だよりで事例を紹介する中で、人間の魅力、素晴らしさに触れ、進んで人から学ぼう、見習おうとする意欲が育てられ、合わせて、身近な人間関係の中からも人の良さを発見し、見習っていこうとする態度を育てるきっかけを作ることができた。

3 今後の課題

この人権だよりの発行で育てようとした人権意識を、継続的に日常の学校生活の中でも、育み、一人一人の生徒の個性を認め、その良さに目を向け、互いに尊重し合える関係を構築していくことが今後の課題である。そのためにも、教師一人一人が、生徒への共感的に理解する目を養い、生徒の良さを発見し、その良さを褒め、励まし、育てていく態度をさらに伸ばしていかなければならないと考える。